

## MACF 礼拝説教要旨

2020.12.13

### 「ヨセフという人」

マタイによる福音書 1 章 18 節～25 節

1:18 イエス・キリストの誕生の次第は次のようであった。母マリアはヨセフと婚約していたが、二人が一緒になる前に、聖霊によって身ごもっていることが明らかになった。

1:19 夫ヨセフは正しい人であったので、マリアのことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心した。

1:20 このように考えていると、主の天使が夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。

1:21 マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。この子は自分の民を罪から救うからである。」

1:22 このすべてのことが起こったのは、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。

1:23 「見よ、おとめが身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」この名は、「神は我々と共におられる」という意味である。

1:24 ヨセフは眠りから覚めると、主の天使が命じたとおり、妻を迎え入れ、

1:25 男の子が生まれるまでマリアと関係することはなかった。そして、その子をイエスと名付けた。

++++

#### 1) ヨセフという人

ヨセフについて聖書はあまり多くを語っていません。

しかし、当初、ヨセフは悩みの中にいました。自分の知らないところで許嫁の妻マリアが妊娠したことを知らされたからです。当時の社会ではそれが明るみに出された時、責められるのは女性の側でした。石打ちの刑で殺されることさえあったと言われてい

ます。そこでヨセフはマリアを守ろうと考え、静かに去らせ、全てを自分のせいにして離縁しようと思立ちます。

そこには誠実な、正義と愛にあふれた男性の姿があります。

そういう葛藤の中でヨセフは夢を見るのです。

1:20 このように考えていると、主の天使が夢に現れて言った。「ダビデの子ヨセフ、恐れず妻マリアを迎え入れなさい。マリアの胎の子は聖霊によって宿ったのである。

1:21 マリアは男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。」

不思議なことに、ヨセフはその言葉に促され、そこに真実を見出し、この天使のいう通りに実行します。

つまり、ヨセフは信仰の人でした。

#### 2) 夢見る人

実は旧約聖書の中にヨセフという人が出てきます。イエス様の父親として知られる人ではなく別人ですが、この人もまた、夢を見る人であり、夢を解き明かすことで大きな出来事に地区面した人です。

同じように新約聖書のヨセフも夢をみて、その夢に促されて行動しています。

マタイによる福音書 2 章には東の国の博士たちがイエス様を拝みにきた記事がありますが、そこには夢がでできます。

2:11 家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を拝み、宝の箱を開けて、黄金、乳香、没薬を贈り物として献げた。

2:12 ところが、「ヘロデのところへ帰るな」と夢でお告げがあったので、別の道を通って自分たちの国へ帰って行った。

2:13 占星術の学者たちが帰って行くと、主の天使が夢でヨセフに現れて言った。「起きて、子供とその母親を連れて、エジプトに逃げ、わたしが告げるまで、そこにとどまっていなさい。ヘロデが、この子を探し出して殺そうとしている。」

2:14 ヨセフは起きて、夜のうちに幼子とその母を連れてエジプトへ去り、

2:15 ヘロデが死ぬまでそこにいた。それは、「わたしは、エジプトからわたしの子を呼び出した」と、主が預言者を通して言われていたことが実現するためであった。

イエス様がお生まれになってまもなく王ヘロデは新しい王の出現に不安を感じ、周辺の赤ちゃんを皆殺しにする計画を立て、実行します。その直前にヨセフは夢でエジプトに逃げるようにと促されるのです。

しばらく、イエス様家族はエジプトで難民生活を余儀なくされます。

そして、ヘロデが死ぬと、また夢で告知があるのです。

2:19 ヘロデが死ぬと、主の天使がエジプトにいるヨセフに夢で現れて、

2:20 言った。「起きて、子供とその母親を連れ、イスラエルの地に行きなさい。この子

の命をねらっていた者どもは、死んでしまった。」

2:21 そこで、ヨセフは起きて、幼子とその母を連れて、イスラエルの地へ帰って来た。

さらにイエス様が「ナザレのイエス」と呼ばれる経緯もヨセフに夢で告知されたことが原因でした。

2:22 しかし、アルケラオが父ヘロデの跡を継いでユダヤを支配していると聞き、そこに行くことを恐れた。ところが、夢でお告げがあったので、ガリラヤ地方に引きこもり、

2:23 ナザレという町に行って住んだ。「彼はナザレの人と呼ばれる」と、預言者たちを通して言われていたことが実現するためであった。

ヨセフは誠実な信仰深い男性でした。そして夢で語られた神様からのメッセージについてすぐに行動に移す人でもありました。

マリアの信仰とヨセフの信仰はともにイエス様の成長と保護のためには重要でした。

私たちがクリスマスの際に少し、意識的に考えておくべき、イエス様の周辺的な重要人物です。これらの人たちの信仰姿勢や生活姿勢は少なからず幼児イエス様に影響をもたらしたに違いありません。

### 3) イエスというお名前

さて、イエスという名前は親が勝手に期待をこめてつけた名前ではありません。

これは神様の側で決めてつけさせた不思議な名前です。

当時の社会ではよく使われていた名前といわれていますが、この方の場合、名付け親が神様ご自身だったというところにその不思議さがあるのです。

#### \*イエス

それは「神は救ってくださる」「神は救い」という意味があります。ヘブライ語では「ヨシュア」です。正確なギリシャ語読みでは「イエズース」英語ではジーザスですね。その意味は「神は救ってくださる」「神様、お救いください」という意味です。

つまり、このお方がいたら「神が救ってくださることがわかる」ということなのです。しかも、この救いは「罪からの救い」ということが書かれています。

神に反抗し、叛逆する心をもった私たちの心が一新し、神の喜びを喜べるようになり、神の悲しみを悲しめるような心になる救いです。自虐的、他虐的な心がイエス様のもたらす赦しによって一新し、神を愛し、神に愛されていることを感謝しながら生きられるようになるという救いです。

#### \*インマヌエル

さらにもう一つの呼び名が紹介されています。インマヌエル。「神は我々と共におられる」というもので、預言されていた名前です。つまり、イエス様を信頼し、イエス様に愛され、イエス様を知るようになればなるほど「神様が共にいてくださる」ことを実感できるようになるのです。

もちろん、それは危険に遭遇し、危機に直面した時、特に心に上ってくるものかもしれませんが、日常の中で「イエス様」と祈る時「神が共にいてくださる」ことを不思議にも信じることができるのです。イエス様に

聞かれ、イエス様に知られていることは、すべて父なる神に聞かれ、知られていることでもあるのだなとわかると、神が共にいてくださることがうなづけるようになってきます。

今、私たちには「救い」が必要であり「神が共におられる」という意識がとても必要です。コロナ禍の中で人に会えず、分断され、自由に集まることができにくい状況の中で「神がイエス様を通して救ってくださる」と「イエス様を通して神が共にいてくださる」ことを深く味わえるとすれば、そこには文字通り、救いが存在し、安心感が存在します。

そういう心の分かち合いがメールや電話でできた時、その交流そのものが「教会」として機能することになるのです。

まだしばらく、自由に会って会合を開き、賛美することは難しいと思います。

でも、神様は私たちを見放したわけでも見捨てたわけでもありません。

この時期、信仰の自立化というか、個人個人が自分と神様との関係を吟味するための大切な期間と捉えることができたなら、そこには大きな祝福があります。

神様は、一人で生活するあなたを支え、あなたと共にいて、あなたをお救いくださるからです。そのことを証明すべく、イエス様は遣わされました。

祝福がありますように。関根一夫